

第13期 男女共同参画学協会連絡会 第3回運営委員会議事録

日時：平成27年8月31日（月）15:00～17:00

場所：東京大学 本郷キャンパス 理学部2号館 講堂

出席者：

正式加盟学協会／（44学協会・95名）

会田弘、吉宗美紀、所千晴、北川尚美（化学工学会）、宮田隆志（高分子学会）、跡見順子、清水美穂（日本宇宙生物科学会）、林ゆう子（日本化学会）、中山榮子（日本女性科学者の会）、西村いくこ、田中寛、本橋令子、平井優美、得平茂樹、野口航、華岡光正、増田真二、山崎真巳（日本植物生理学会）、平田典子、芥川和雄、（日本数学会）、小川温子、横山三紀、北爪しのぶ、相川京子、小林哲幸、藤原葉子、市育代、坂上ひろみ、澤崎達也、齊藤玉緒、今泉美佳、矢部希見子、多胡めぐみ、松島綾美、渡辺恵子、村田律子（日本生化学会）、別宮有紀子、木下晃彦（日本生態学会）、高橋聡（日本生物物理学会）、志牟田美佐（日本生理学会）、北尾彰朗（日本蛋白質科学会）、佐藤恵、小柴和子（日本動物学会）、吉田薫（日本発生生物学会）、阿見彌典子（日本比較内分泌学会）、フラナガンジョン（日本物理学会）、井関祥子、小野弥子、中川真一、山口恵子（日本分子生物学会）、竹中千里（日本森林学会）、橋本久美子、木戸ゆかり（地球電磁気・地球惑星圏学会）、松尾一郎（日本糖質学会）、川浦香奈子（日本育種学会）、奥部真樹、関根あき子（日本結晶学会）、小口千明、清野直子（日本地球惑星科学連合）、大鐘潤（日本繁殖生物学会）、富田-横谷香織、木村駿太（生態工学会）、堀頭子、三宅亮介（錯体化学会）、榊原恵子（日本進化学会）、大坪久子、荒木喜美（日本遺伝学会）、八藤後猛（日本建築学会）、可知直毅（種生物学会）、植田富貴子、金井正美（日本獣医学会）、澤竜一（日本質量分析学会）、赤川泉、吉川朋子、高田未来美（日本魚類学会）、恒次祐子（日本木材学会）、岩熊まき、石田佳子（日本技術士会）、戸部博、永田典子、川合真紀、角川洋子、小竹敬久、近藤由華（日本植物学会）、中村ゆり（園芸学会）、今城純子、徳田信子（日本解剖学会）、佐藤博隆（日本中性子科学会）、大矢純子、千安由紀子（計測自動制御学会）、田中茂穂（日本体力医学会）、今井桂子（日本応用数理学会）、荻田香苗、野村恭子（日本衛生学会）、渡辺悦子（日本民族衛生学会）

オブザーバー加盟学協会／（6学協会・7名）

吉野摂津子（日本火災学会）、山口理栄（日本女性技術者フォーラム）、蝶野真喜子（植物化学調節学会）、本田郁子（日本細胞生物学会）、近藤高志、中内晶（応用物理学会）、関眞佐子（日本流体力学会）

委任状：正式加盟学協会（8学協会）

日本神経科学学会、日本畜産学会、日本水産学会、日本農芸化学会、日本魚病学会、日本神経化学会、「野生生物と社会」学会、日本熱帯医学会

新規オブザーバー加盟学協会（後ほど承認）／（1学協会・1名）

夏秋啓子（日本植物病理学会）

男女共同参画学協会連絡会規約5.2「運営委員会は、委員長が招集し、正式加盟学協会の3分の2の出席（委任状を含む）を以って成立する。」より、正式加盟学協会54の2/3である36学協会を超える44学協会の出席および8学協会の委任状提出を受け、定足数を満たしているため、本運営委員会は成立する。

開会に先立ち、西村いくこ委員長から以下の挨拶があった。

今日は皆様お忙しい中、お集まり頂きありがとうございます。これまで3回運営委員会を開催したのですが、これが最後の運営委員会になりますので、是非皆さんの意見を聞かせていただきたいと思います。また、この間にいくつかの政府への働きかけなどの活動を行ったので、後ほど報告させていただきます。

議事

I 確認事項

- ・第13期 第2回 運営委員会 2015年4月27日（月）議事録が一箇所誤字訂正の後、承認された。（資料配布）

II 報告事項

1. 後援・協賛の申請および報告

- ・日本発生生物学会（後援）

吉田氏より日本発生生物学会第48回大会中の2015年6月5日の昼に第9回男女共同参画ワークショップが開催されたことが報告された。テーマは「誰のための男女共同参画活動？」とし、日本発生生物学会の会員についての第3回アンケートの結果を紹介した上で、3名の先生方による講演後、パネルディスカッション形式で行われた旨、報告された。参加者は100名、ワークショップ後実施したアンケートについては、半数から回答が得られたことも報告された。（資料配布）

- ・女子中高生夏の学校2015～科学・技術・人との出会い～（後援）

永田副委員長より、2015年8月6～8日に独立行政法人国立女性教育会館にて開催されることが報告された。（資料配布）

- ・高専女子フォーラム in 東北（後援）

永田副委員長より、2015年12月19日にTKPガーデンシティ仙台にて開催予定で、事務局で申請書を確認の上、後援を認めたことが報告された。（資料配布）

- ・高専女子フォーラム in 九州沖縄（後援）

永田副委員長より、2016年3月21日に福岡県西日本総合展示場にて開催予定で、事務局で申請書を確認の上、後援を認めたことが報告された。（資料配布）

- ・地盤工学会（後援）

永田副委員長より、2015年9月1～3日に北海道科学大学で開催予定の第50回地盤工学研究発表会において、特別セッションが「地盤工学会におけるダイバーシティの実現～地域に根ざしたダイバーシティ」をテーマにして開催予定であることが報告された。（資料配布）

- ・日本動物学会（後援）

小柴氏から、毎年大会に合わせて、男女共同参画懇談会を開催していて、今年は朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンターで2015年9月16日から19日に開催される第86回新潟大会において、9月18日に第15回男女共同参画懇談会を開催し、第3回アンケートの日本動物学会の会員についてのデータ解析の結果を報告した上で、「多様なワーク・ライフ・バランス実現から研究時間の獲得へ」というテーマでグループディスカッション形式で話し合う予定であることが報告された。（資料配布）

- ・高専女子フォーラム in 関西（後援）

永田副委員長より、2015年12月23日に、大阪府立大学 I-site なんばにて開催予定で、事務局で申請書を確認の上、後援を認めたことが報告された。（資料配布）

- ・日本神経化学会（後援）

永田副委員長より、第58回日本神経化学会大会中に2015年9月13日に、大宮ソニックシティにてダイバーシティ推進委員会企画ランチョンセミナーが開催予定で、事務局で申請書を確認の上、後援を認めたことが報告された。（資料配布）

永田副委員長より、後援は事務局にて書類に不備のないことを確認した段階で承認し、HP上に掲載していることが説明された。

2. 国地方連携会議ネットワーク男女共同参画推進事業の採択

永田副委員長より、国地方連携会議ネットワークには委員長が委員として加わることが慣例となっていることと、男女共同参画推進事業の公募について応募の募集をしたところ、日本森林学会・日本木材学会が申請をすることが前回の運営委員会で承認されたことが説明された。申請の結果、日本森林学会・日本木材学会主催のワークショップ「木づかい」産業における男女共同参画推進による地域活性化（2015年11月29日（日）名古屋大学）が採択されたことが報告された。（資料配布）

竹中氏（日本森林学会）より、ワークショップの内容について説明がされた。

木づかい産業とは、木を育てるところから使うまでの一連の流れのことをいい、女性が活躍することによって、地域が活性化することが期待される。木材に関わる森林管理局と森林組合、製材系、木材加工、建築系の業界から女

性従事者と上司のペアに講演をお願いした上で、これからの木づかい産業が地域社会と20年間歩んでいくかということテーマにワークショップを行う予定。ポスターは作成中であり、誰でも参加可能。

3. 2015 Gender Summit Asia-Pacificへの参加報告（資料配布）

永田副委員長から、2015年8月26～28日にソウルで開催されたジェンダーサミットに、13期幹事学会の本橋氏（日本植物生理学会）が参加したことが報告された。資料として配布した要旨において、所属は連絡会、内容は第3回大規模アンケートの解析結果報告であることが説明された。

本橋氏から、第6回ジェンダーサミットに出席したことについて報告があった。

アフリカ、EU、アジア・パシフィックの40カ国589名が参加し、講演105名、ポスター発表70名。日本から40名参加。全体のテーマは、科学分野におけるジェンダーイコールティニーについて。今回のテーマは「Enhancing societal impact through gendered innovations in research, development and Business」。日本は韓国や中国に比べてジェンダー指数が低いことが印象的。2016年はメキシコ、2017年は東京で春にJST主催で第9回が開催予定。いろいろな事情や文化の国が参加していて、参加すれば日本での問題点について解決の糸口が得られたり、アイデアがひらめいたりすることが期待できる。

日本地球惑星科学連合の小口氏から日本からの参加者について質問があり、本橋氏から、40名程度の日本からの参加者の内、JSTスタッフが10名ほどで、日本物理学会の方が多かったことが説明された。

副委員長の永田氏から、この期間中の28日に開催された女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム（WAW! 2015）に2学協会参加したことについて、次回運営委員会での報告が依頼された。

4. WGからの活動報告

永田副委員長から、6つのWGが活動中であることが説明された。

・学会を含むリーダーシップ活動の機会均等WG（資料配布）

日本分子生物学会の小野氏より、各学協会の学術集会における演題発表者等の「属性調査」の中間報告がされ、11学協会からデータの提供を受け、現在解析の途中で、結果は10月のシンポジウムの資料集に載せる予定であることが説明された。

永田副委員長からの質問を受け、小野氏から、属性調査の結果は、シンポジウム前の分は締め切りだが、今からでも協力してもらいたい旨、説明された。

・第4回大規模アンケート調査のためのプレWG

化学工学会の北川氏より、前回の運営委員会の後に第1回目として顔合わせを行ったこと、本日の運営委員会後に第2回目として勉強会を予定していたが、講演者の都合で勉強会は中止となり、今回は、今後の活動スケジュールを話し合うことになったことが説明された。

・男女共同参画に関わる勉強会

日本宇宙生物科学会の清水氏より、本日の運営会議の後にトークサロンを開催する旨、説明があった。第9期では、「今こそ、科学・技術分野に多様性を」という要望書を提出したが、今後も不断の努力をしていかななくてはならないので、「女性科学・技術者をめぐる社会状況について」というテーマで、運営委員会終了後、学協会レベルでなくて、個人的なレベルで話しあう場を設けたいとの説明がなされた。

5. 女性比率調査のお願い（資料配布）

永田副委員長より、各学協会に対して2015年女性比率調査の依頼がされた。連絡会では隔年で女性比率調査と活動調査を行っている。今年は女性比率調査をする予定で、会員の中での比率だけでなく、執行部や評議員、委員会についても細かく女性比率を調べる。後日、リエゾンでエクセルのフォーマットで配布予定。事務局あて、9月末日締切。

西村委員長から第12期が作成した前回の2013年女性比率調査結果のまとめについて説明がされた。134学協会分のデータがまとめられており、2020年までに指導的立場にある女性を少なくとも30%にするという政府が掲げた目標202030の達成度を知るためにも必要であることが強調された。それぞれの学会の状況をみていただき、データを使用していただきたいとの説明がなされた。

6. 連絡会の要望書活動の成果（資料配布）

西村委員長より、数値データを示すことが政府への働きかけに有効であることが説明された上で、文科省が作成した「女性研究者養成システム改革加速事業の公開プロセス配付資料」において、関係団体の要望の欄に平成26年4月の男女共同参画学協会連絡会の要望が盛り込まれていることが報告された。文章として盛り込まれることで、変える力になると考えられるので、今後もアンケートや女性比率調査などの数値データを集めることの重要性が説明された。

7. 省庁訪問の報告（資料配布）

西村委員長より、8月28日に開催されたWAW!2015のように政府も本腰を入れて、202030を実現しようとしているので、色々な団体が連携しながら、大きな力にしていくことが重要であることが強調された。政府への働きかけが非常に重要なので、第5期科学技術計画をターゲットとして、男女共同参画の要望を組み込んでもらう必要があることが説明された。特に、第3期および第4期科学技術計画では書かれていた男女共同参画の文言が、第5期科学技術計画に向けた中間取りまとめ（案）では激減していることを受けて、数値目標の基本計画への明記と積極的な改善措置の策定と、女性・若手研究者・技術者の研究力と次世代育成を支えるための「ワークライフバランス基盤の定着促進のための新規事業創設」の2点を訴えるために省庁訪問を行ったことが報告された。6月30日に総合科学技術会議議員 原山優子氏、内閣府男女共同参画局長 武川恵子氏（同席：総務課長池永氏、政策企画調査官酒井氏、推進課上席調査員市川氏）、文部科学省 大臣官房参事官 松尾泰樹氏、7月31日に文科省 生涯学習局長 河村潤子氏、8月4日 文科省 科学技術・学術政策局人材政策課長 柿田恭良氏、8月10日に総合科学技術会議議員 原山優子議員、文科省 審議官研究開発局 板倉周一郎氏を大坪久子氏、第11期 澤田美智子氏、佐藤恵氏、第12期 平田典子氏、第14期 小川温子氏とともに訪問した。特に、第5期科学技術計画の策定にかかわる原山優子議員には一回目の訪問時に、もっと具体的な策が必要であると指摘されたので、上記の2点のような策を示すために、2回目の訪問を行ったことが説明された。また、もう一つの政府への働きかけとして、第4次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方（素案）」に係る意見募集があったので、連絡会メンバーへ積極的なコメント発信をリエゾンメールで依頼したことが報告された。特に、科学技術・女性研究者の項目5について、「第5期科学技術基本計画にも、女性研究者・技術者登用の数値目標を入れて欲しい」とのコメントが重要なので、平成27年7月29日（水）～平成27年9月14日（月）の意見募集期間中に、パブリックコメントを行っていない人は行って欲しい旨、説明があった。

8. 日本学術会議男女共同参画分科会の報告

戸部副委員長より、第13期の目標として、日本学術会議との連携を強化するということを掲げて活動を行ってきた旨の説明があった。科学者委員会の中に男女共同参画分科会があり、10年間活動してきたが、2011年に内閣府男女共同参画局長から日本学術会議に科学者コミュニティにおける女性の参画を拡大する方策の審議依頼があり、22期から23期にかけてアンケートなど報告書を作成の上、2015年の5月と7月に23期の会議を重ねて、12月の第4次男女共同参画基本計画に向けて、日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会の提言書を提出することになった旨、説明された。抽象的な理想論ではいけないとの見地から、8月6日付で提言を行い、主だった項目は5つあり、ポジティブアクションとして具体的な数値目標を達成するために、機能実態と実施状況を調査・評価・公表・是正・勧告する権限を有する専門機関を政府から独立した機関として設置することや、男女共同参画活動の進捗状況を評価するための指標や指数、ガイドラインの作成などを盛り込んだことが説明された。また、第13回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムにおいて、提言をまとめる上で中心的な役割を果たした日本学術会議の井野瀬副会長の講演が予定されていることや、12月20日にも日本学術会議のフォーラムも開かれることが説明された。

9. シンポジウム準備状況

永田副委員長より、審議事項でまとめて報告・審議がすることが説明された。

10. その他

・第5期科学技術基本計画における女性研究者支援に関するScience誌の記事（資料配布）

日本遺伝学会の大坪氏から、Science2015・7/10号に原山優子氏、大坪久子氏、佐々木成江氏のインタビュー記事が出ていることが報告され、以下の当該記事が資料として配布された。

Women in Science: Plan to drop goals for women roils Japanese Science: Change stirs debate about how underrepresentation of women. Science 349, Issue 6244 p127-128, July 10, 2015 by Dennis Normile, in Tokyo. 2年前に日本の女性研究者支援に関する記事が掲載されてから、その後の女性研究者支援の進捗状況の問い合わせがあり、第5期科学技術基本計画の中間取りまとめの中で、女性研究者支援の文言が激減したことを知らせたところ、インタビューが行われることになった経緯が説明され、海外の雑誌関係者での注目度が高いことが強調された。

III. 審議事項

1. 第14期幹事学会より

第14期小川温子委員長（日本生化学会）より挨拶と幹事学会の運営委員会メンバーの紹介があった。次の運営委員会の日程は12月15日15:00～御茶ノ水女子大学で行われることが説明された。西村第13期委員長より、次回運営委員会からは第14期が担当することが説明された上、第14期委員長が拍手で承認された。

2. 新規加盟

- ・日本植物病理学会（オブザーバー加盟）（資料配布）

永田副委員長より、第13期事務局で加入申込書を確認したことが説明された上、新規オブザーバー加盟が拍手で承認された。日本植物病理学会の夏秋氏より挨拶があり、正会員が1381名で、そのうち女性会員が221名で16%、学生会員が323名で、そのうち女性会員が142名、43%であることが説明された。

3. 第13回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム（資料配布）

田中副委員長より、準備の進捗状況とプログラムの説明があった。

第13回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムは、日時：2015年10月17日（土） 場所：千葉大学けやき会館（西千葉キャンパス）。ポスター（縮小版）を資料として配布し、ポスターを各学協会に3部ずつ配布予定。ポスターには講演の概要を記載。例年シンポジウム開催にあたり、各省庁から後援をいただいているので、例年通り5月に申請したが、文部科学省に関しては認可システムが変わったこともあり、ポスター印刷までに間に合わなかったため、「申請中」の文字を入れた。文部科学省の申請は8月31日付で通ったので、修正テープで消したものを本日はお持ち帰りいただく。要旨集では申請中とは記載されないとのこと。

全体テーマ「国際的な視点から見た男女共同参画の推進」。託児室の利用が可能なので、9月末日までに第13期事務局まで申し込んで欲しいとのこと。例年は午前中に2つの分科会を開催していたが、今年は幹事学会の日本植物生理学会と日本植物学会、次年度の幹事学会の日本生化学会が合同で開催することになったとのこと。企画は日本植物生理学会の篠村氏が中心で行い、国際的な視点の前に国内に目を向けることが大事ということで、テーマは「仕事と家庭の両立を目指してー私たちの壁であり続ける出産・子育ての乗り越え方を男女で考えようー」。科学技術振興機構の渡辺美代子氏に「母として、研究者として、未来を拓くー自分を変える、社会を変える」という演題で講演していただき、その後、配偶者も研究者で子育て経験のある榊原均氏と酒井達也氏、松本紋子氏を交えて、パネル討論の予定。ポイントは子育てに必要な支援・制度・理解は何か。午後は国際的な視点からの講演をいただく予定。講演に先立ち、西村委員長と千葉大学の徳久学長、京都大学理事の稲葉氏、内閣府男女共同参画局の大塚官房審議官および依頼中の文部科学省科学技術・学術政策局の方からご挨拶をいただく予定。文部科学省の方には次年度の事業の改革についてもお話しいただく予定。原山優子氏もビデオ出演していただく予定。海外から2名の講演者を呼ぶ予定。一人目はIris Wieczorek氏で、「ドイツの男女共同参画について」という演題で、政策的なことから将来の考えられるシナリオまでお話しいただく予定。二人目は小田玲子氏で、演題は「フランス CNRS の研究員経験より」。もう一人は名古屋大学の佐々木成江氏で、演題は「女性教員の増加により見えてきた効果と課題」で日本のことをお話しいただく予定。その後、日本学術会議の井野瀬氏からの報告と、日本植物生理学会の本橋氏からのジェンダーサミット参加報告、その他の報告の予定。Scienceの記者の方などにも講演を依頼中。

シンポジウム予稿集の原稿の締め切りは9月7日まで。参加申し込みのフォーマットおよび送金方法についてはHP上に記載しており、締め切りは9月24日。シンポジウム当日に各学協会に記録係などの手伝いを依頼する予定。プログラム等は拍手をもって承認された。

西村委員長から閉会の挨拶があった。

本日は皆様お集まりいただきありがとうございました。今日が第3回の運営委員会で、例年もう少し回数が多かったのですが、全3回にさせていただきました。つたないところもあったかと思いますが、ご容赦ください。先ほど紹介のありましたシンポジウムの件で、私どもも頑張りたいと思いますので、皆様も是非ご協力よろしくお願いたします。幹事学会を引き受けた時にはわからなかったのですが、今になって非常に重要な時期であることを再認識しています。先ほどご説明したとおり第4次男女共同参画基本計画が策定されますし、第5期科学技術計画の策定の年になります。推測の域を出ませんが、科学技術計画の方もパブリックコメントの募集があるのではないかと考えております。そこでも、是非皆さんの意見やコメントを出していただきたいと思います。新規加入される学協会が増えることは非常に喜ばしいことだと思います。私たちは一人ひとりでは微力ですが、全体が集まると一つの力になり、そうして政策を動かしていけることを実感してきましたので、今後も皆様のご協力をよろしくお願いたします。11月から日本生理学会に幹事学会が移ります。

永田副委員長から、運営委員会後の以下2点の催し・会合についてアナウンスがあった。

- ・トークサロン（WG：男女共同参画に関わる勉強会）
「女性科学・技術者をめぐる社会状況について」
223号室（旧植物講義室）にて
- ・第4回大規模アンケート調査のためのプレWGの会合
201号室（旧動物講義室）にて